

平成26年度 東洋学研究情報センター共同研究課題年次実績報告書

1. 研究課題名

広島大学文学部旧蔵漢籍目録作成のための研究

2. 申請研究者

(氏名) 赤迫 照子 (所属) 宇部工業高等専門学校・准教授

3. 申請者以外の共同研究者

(氏名) 野間 文史 (所属) 広島大学・名誉教授 二松学舎大学・特別招聘教授

(氏名) 富永 一登 (所属) 広島大学大学院文学研究科・教授

(氏名) 大木 康 (所属) 東京大学東洋文化研究所東アジア第二部門・教授

4. 研究期間

平成26年4月1日から平成28年3月31日(2年間)

5. 課題の概要(600字程度)

広島大学文学部旧蔵漢籍(現在は大半を広島大学図書館に移管)は、原爆による被災や、昭和から平成にかけて四十年近く費やされたキャンパスの統合移転の他様々な事情によって、長年、整理が滞っていた。申請者は平成19～21年度に広島大学図書館研究開発室、平成22～24年度には広島大学大学院文学研究科に所属し、広島大学文学部旧蔵漢籍の調査及び目録作成に取り組んだ。広島大学文学部が蒐集した漢籍約4,000点の中には、明本を含む『文選』関係資料・『李卓吾先生批評西遊記一百回繪圖』をはじめとした善本が存する。国内外の研究者の閲覧に供するためには迅速に残りの調査を完了させて、漢籍目録を刊行しなければならない。

この広島大学文学部旧蔵漢籍目録の刊行は、広島大学所蔵資料への評価のみならず、申請者が受講した東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター主催漢籍整理長期研修への再評価にもなる。広島大学文学部旧蔵漢籍目録刊行は、漢籍整理長期研修後、受講者が所属の図書館で漢籍整理を実現するためのモデルケースとして他機関に示すことが可能である。そこで東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターと共同で、広島大学文学部旧蔵漢籍目録刊行を漢籍整理の普及の促進を図るためのモデルケースとして構築し、国内諸機関、特に地方大学における漢籍整理事業のあるべき方向性を提唱する。

6. 今年度の研究実施状況(400字程度)

①平成27年度の出版に向けて、広島大学文学部旧蔵漢籍目録の原稿を完成させた。未調査である漢籍の目録作成を全て終了させて排列に取り組み、四部分類による排架作業を完了させた。

②研究会にて目録情報の検討や出版の方向性を定めた。

③漢籍目録の紹介・目録作成の具体的な方法・地方における漢籍整理の必要性について、口頭報告・論文発表を行った。また、公開講座でも言及した。

④野間教授・磯部彰東北大学教授と共に、広島市立図書館所蔵浅野文庫漢籍の調査・目録作成に取り組んだ。この成果は冊子目録として平成27年度に出版予定である。なお、浅野文庫漢籍と、広島大学文学部の前身校である広島高等師範学校との繋がりが確認された。

7. 今年度の研究成果の概要(400字程度)

赤迫照子

論文:「広島大学所蔵漢籍目録作成への過程」(『図書館学』105号 西日本図書館学会 pp.47-54 平成26年9月)

口頭報告:「広島大学所蔵漢籍目録作成への過程—目録の仕事を継承していくために—」(平成26年度西日本図書館学会春季研究発表会総会 於サンメッセ鳥栖(佐賀県鳥栖市)平成26年6月28日(土))

公開講座:「くずし字で読む古典」(宇部高専市民文化サロン 第1回 10月18日(土)10:00~11:30、第2回 11月29日(土)10:00~11:30)

その他:広島市立図書館所蔵浅野文庫漢籍の調査・目録作成(8月~現在)

8-1. 共同利用・共同研究活動の状況

(1) 共同研究のための研究会、シンポジウム等の実施状況

開催期間	形態(区分)	対象	研究会等名称	概要	参加人数
H26.4.18	研究会	国内	広島大学文学部旧蔵漢籍目録作成検討会	出版する目録全体の方向性や出版・公開方法の検討	2
H26.9.8~12	研究会	国内	広島大学文学部旧蔵漢籍目録作成検討会	広島大学文学部所蔵漢籍の目録及び排列の分析と検討	延べ30名
H27.2.18~20	研究会	国内	広島大学文学部旧蔵漢籍目録作成検討会	広島大学文学部所蔵漢籍の目録及び排列の分析と検討、出版する目録全体の方向性や出版・公開方法の検討	延べ16名

(2) 上記(1)の研究会、シンポジウム等の参加状況

区分	平成26年度								
	機関数	受入人数			延べ人数			大学院生	
		外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生		
東京大学内	1	1			2				
国立大学	1	5 (1)		4 (1)	37 (8)			29 (8)	
公立大学									
私立大学									
大学共同利用機関法人									
独立行政法人等公的研究機関	1	1 (1)			9 (9)				
民間機関									
外国機関									
その他									
計	3	7 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	48 (17)	0 (0)	0 (0)	29 (8)

(6) 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組

広島大学大学院文学研究科の大学院生を目録確認調査・四部分類排架作業のアルバイトとして雇用了。大学院生は漢籍の取扱いに関する技術を習得し、また、漢籍目録の公開方法、全国の諸機関における漢籍整理の現状を学習した。また、地域の漢籍整理を進める必要性についても具体的に理解することができた。

(7) 関連分野発展への取組(大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築 等)

広島市立図書館所蔵浅野文庫漢籍の調査・目録作成・冊子目録出版を行った。旧冊子目録の斯波六郎・田中巖編『広島市立浅野図書館和漢圖書目録』(昭和二十六年)は広く利用されておらず、専門の研究者にも所蔵状況が知られていなかったが、目録が整備されたことによって、共同利用が可能になった。また、広島大学文学部所蔵漢籍とあわせて、広島県域全体における漢籍目録の整備を大幅に進展させることができた。

8-2. 共同利用・共同研究による研究成果

(1) 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

区分	平成26年度	
論文数	5	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(4)	(1)

※下段の()内には、東文研以外の研究者による成果(内数)を記載。

(注)分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で以下に記入して下さい。

役割	富永一登:研究会の主催・研究会名による論文原稿の作成・校正	
区分	平成26年度	
論文数	3	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(3)	(0)

※下段の()内には、東文研以外の研究者による成果(内数)を記載。

(注) 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なもの
※ 東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
上海古籍出版社	1	『明末江南的出版文化』全pp.189	大木康・周保雄 訳

(2) 共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果(特許を含む)

広島大学文学部所蔵漢籍の悉皆調査と目録作成が終了し、冊子目録の原稿(一太郎ファイル)が完成した。出版は東京大学東洋文化研究所から行う予定である。また、四部分類による排架も終了し、共同利用にむけての準備が整った。

※共同利用・共同研究による国際的にも優れた研究成果や産業・社会活動等に大きな影響を与えた研究成果についてご記入ください

(3) 共同利用・共同研究活動が発展したプロジェクト等

プロジェクト名	主な財源	プロジェクト期間	プロジェクトの概要
広島市立図書館浅野文庫 解題目録(漢籍)作成	広島市	H26.4~H27.3	広島市立図書館浅野文庫蔵 漢籍の調査・目録作成・冊子 目録出版

※プロジェクト研究に発展した共同利用・共同研究がある場合、そのプロジェクト研究の名称と財源(国の補助事業等)、期間、概要を記入して下さい。

(4) 8-1(1)以外の公開講座、公開講演会等の実施状況

シンポジウム・講演会	セミナー・公開講座	その他	合計件数		
件数	1	2	3		
開催期間	形態(区分)	対象	公開講座等名称	概要	参加人数
H26.10.18	公開講座	一般	宇部高専市民文化サロン「くずし字で読む古典」第1回	日本の古典籍・漢籍の基礎知識を紹介し、原典に触れるたのしみについて説明した。	20
H26.11.29	公開講座	一般	宇部高専市民文化サロン「くずし字で読む古典」第2回	日本の古典籍・漢籍の基礎知識を紹介し、原典に触れるたのしみについて説明した。	20
H26.10.20	講演会	一般	広島市立図書館・広島大学図書館連携事業 講演会「中国六朝時代の仏教美術と小説」	講演「古小説に見られる仏教説話の中国化」	60